

○事業所名	国立病院機構新潟病院 通所事業所 たんぼぼ		
○保護者評価実施期間	2025年1月22日～2025年2月21日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	児童1、放デイ3	(回答者数) 児童1、放デイ2
○従業者評価実施期間	2025年1月29日～2025年2月21日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 17
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月17日		

○分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	対象者を重症心身障害児とし、医療度の高い利用者の受け入れを行っている	人工呼吸器、気管切開、胃瘻、経鼻栄養、酸素マスク使用者等、医療度の高い利用者を受け入れている。安全に利用していただくため、医師や外来担当者を含めた急変時対応シミュレーションを実施している	多様なケースを想定したシミュレーションの継続と必要に応じた医療機器の購入、導入を図りたい
2	利用者の発達、体調、特性などに考慮した療育プログラムを実践している	ゲーム、製作、カラオケ、動画鑑賞、大型遊具などの他、季節の行事を行い、様々な体験ができるようにしている。その中で、他利用者との交流を目的とした活動も提供している	活動計画を職員全体で検討、共有し、より楽しんでもらえたり、利用者の持っている力を発揮できるような内容を増やしていく
3	多くの関係部署(多職種)が参加した情報共有の打ち合わせを実施している	2か月に一度、主治医、看護部(外来、地域連携含む)、経営企画、医事、リハ・栄養部門、療育が参加し、通所ワーキングの会議を開催している	月に1回、当事業所に関わる看護、療育で「たんぼぼ会」を開いており、通所ワーキングとの相互、情報共有を図っていきたい

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	多機能型で運営している中、現在各曜日とも利用者受け入れ人数の上限に達しており、新たな受け入れや、希望に添った受け入れができていない	場所(スペース)と職員の配置人員から限界が来ており、保護者から「他の曜日を利用したくても定員オーバーで預かってもらえないので職員を増やしてほしい」との意見が上がる	場所、人員の限界があり、他の利用者のキャンセルが事前に分かっている時の利用を調整する方法を検討していく
2	当事業所に関わる看護師の実質的な人数が増え、毎回2名の配置を実施している。通所を担当することで、利用者を知る職員が増えたが、制度理解までは充分に至っていない	前年度まで看護師はほぼ固定化されていたが、今年度から当事業所に関わる看護師の人数が増え、アンケート対象は5名から13名と増えた。そのため、通所の制度的な面で「知らない」「わからない」の回答が多くあった	新しく関わる職員向けの、分かりやすく簡単にまとめた「制度概略」のような冊子作成などを検討課題としたい 現状の中では、情報共有をより確実にし、チームで利用者を支援していくことが必要
3	今年度は長年従事してきた職員の退職が重なり、保護者からの指摘があった	保育士・指導員4名のうち2名が年度途中で退職。交替は利用者・保護者にとって当事業所を利用するうえでの不安材料となった	退職希望などを早めに把握するよう努め、急激な変化とならないような運営を考えていく。 研修等に参加し、職員一人一人の質の向上を図り、体制を整えていく